

答
辞

第六十八期卒業生代表

河合純伸

暦の上では春とはいえ、まだまだ寒さが厳しい毎日が続いております。本日は、私たち卒業生のためにこのような素晴らしい卒業式を開催していただき誠にありがとうございます。お忙しい中、お集まりいただきたいご来賓の方々や保護者の皆様、今日のために準備していただいた先生方、在校生の皆さんに卒業生を代表して心よりお礼申し上げます。

北高での三年間は、私たちに与ってかけがえのない日々でした。授業では、予習・復習を当たり前のようになす、中学校と全く違う学習を心掛けなければならず、相当量の学習時間が要求されました。考査前は、必死に学習内容の暗記と理解に励んだものです。しかし、日々の勉強に真剣に向き合っていくうちに私たちは、学習意欲を高め、互いに切磋琢磨していくことができました。北高の学習環境の高さがこの一助となったことは間違いありません。また、家庭科での被服製作や情報でのプレゼン発表、高大連携授業への参加などの機会は、私たちの社会教養、そして将来への視野を大きく広げてくれました。

こうした学習活動に加え、北高では行事が非常に活発でした。特に、北高祭は、行灯・全校行事・学級プロジェクトの三部門を完成させる、極めて濃い内容でした。三部門を約一か月で完成させるという厳しい時間設定でしたから、各クラスで人数不足や材料不足などの問題が生じ、完成が危ぶまれることもありましたが、様々な逆境があっても、クラスメート全員の知恵と力を合わせて最後の最後まで完成度を高めるといふ、集団が見せる底力を実感したときには特に感無量でした。まさに青春時代のかけがえのない一ページとなりました。

部活動では、私は書道部に所属し、毎日競うように書道の練習に向き合いました。加えて、先生の丁寧なご指導もありましたので、大会では高い評価をいただくことができ、部活動を通じて、私は努力が報われることを実感しました。

私は、こうした三年間の北高生活を通して得られたもののうち、最も大切なものは「出会い」だと考えます。入学当初は、みんなが優秀な学習成績を積み重ねた才能に恵まれた人たちであるという固定観念が私の心の中にはありませんでした。しかし、学校生活を経るにつれ、授業でのグループ活動やスピーチでの自己表現のうまさなどを見ると、それ以上に謙虚で真面目に努力を積み重ねてきている秀才の集まりであるということに気づきました。こうした学習意欲の高い集団に属していることが私にとって大きな刺激となり、さらな

る学習意欲の向上につながりました。また、学業に限らず、個性にも注目していくと、行事でのリーダーシップや日常の交流などを通して、自分にはない社交性をもつ友人の多さに気づかされ、そんな友人を本当に尊敬しました。友人は、学校で自分から話しかけに行けない内気な私に対し、様々な話題を与えてくれ、そして笑いあえる、私にとっては最高の存在でした。これからの人生においても記憶に残る数々の思い出を作ってくれたことに、大変感謝しています。

私たちはこれからも社会との交流を通じて、予期しない課題に直面するでしょう。一方、現在のところ私たちの未来に関しては様々な課題が予測されています。例えば、少子高齢化が進むにつれ、今後高齢者を含め、社会的弱者は増加すると予測されています。こうしたなかで、世代間格差、経済格差など社会の分断がさまざまに生じています。こうした課題を解決するヒントが、実は北高での集団学習にあるのではないのでしょうか。確かに、私たちは一人一人の持論をもつことも大事かもしれませんが、しかし、自説に固執して他者の意見や判断に耳を傾けないようでは、対話が成立しません。知性とは、個人の知識や情報の豊かさではなく、対話を通して自分の知的な枠組みを柔軟につくりかえ、他者にも新たな発想や行動を促す力のことだと思えます。やはり、集団として情報を取り入れ、それにどう対処していくべきかについて集団全体で理解に努めることが大事だと考えます。社会に潜む課題に対して、自らの固定観念を取り払い、相手との双方向的な対話を重ねることが大人になる私たちには欠かせません。もつと物事を多面的にとらえることやネガティブな発想で物事を見つめるのではなく、ポジティブな面を集団の話し合いで探していく。北高での集団学習は、このような態度の育成に大きな効果があったと思います。社会的弱者を含め、多様な他者を受け入れるというのは難しいことではありますが、私たちは、北高で養った真の知性を胸に刻んで、社会への問題意識を高め、多様性を認めていきたいと考えます。そして、集団で発揮される知的活動の成果を高めるような真のコミュニケーション能力をさらに養っていきたく思います。

ここで、お世話になった方々にこの場を借りてお礼を申し上げます。家族は、普段から進路や部活動など様々なことに関して心配してくれました。悩みを打ち明けることもしばしばあったのですが、それを素直に受け止め、アドバイスをしてくれ、大変感謝しています。また、北高の先生方は、尊敬するほど熱心に生徒と向き合い、生活への配慮を含めご指導をしてくださりました。本当にありがとうございました。

最後になりましたが、この札幌北高校で私たちが得た、人間として欠かせない知識や人間関係を生かして、社会に貢献することをここに誓わせていただきます。そして、今後の札幌北高校のご発展と、皆様のご健勝・ご活躍をお祈りして、答辞とさせていただきます。

平成三十年三月一日